

**【表紙】**

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成26年6月27日
【事業年度】	第73期（自平成25年4月1日至平成26年3月31日）
【会社名】	千寿製薬株式会社
【英訳名】	SENJU PHARMACEUTICAL CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 吉田 有宏
【本店の所在の場所】	大阪市中央区平野町二丁目5番8号
【電話番号】	大阪（06）6201 - 2512（代）
【事務連絡者氏名】	経理部長 梅本 勝功
【最寄りの連絡場所】	大阪市中央区平野町二丁目5番8号
【電話番号】	大阪（06）6201 - 9624
【事務連絡者氏名】	経理部長 梅本 勝功
【縦覧に供する場所】	該当ありません。

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次 決算年月	単位	第69期	第70期	第71期	第72期	第73期
		平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
売上高	千円	-	23,682,443	25,108,555	28,686,883	33,307,991
経常利益	千円	-	2,998,756	4,315,316	2,482,702	4,888,374
当期純利益	千円	-	1,202,516	1,867,841	2,534,030	3,317,422
包括利益	千円	-	967,837	2,282,654	3,185,433	3,648,782
純資産額	千円	-	24,057,230	26,213,384	29,272,318	32,794,600
総資産額	千円	-	34,930,185	36,556,175	41,572,889	43,530,745
1株当たり純資産額	円	-	1,901.75	2,072.20	2,314.01	2,592.45
1株当たり当期純利益金額	円	-	95.06	147.65	200.31	262.24
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	円	-	-	-	-	-
自己資本比率	%	-	68.9	71.7	70.4	75.3
自己資本利益率	%	-	5.0	7.4	9.1	10.7
株価収益率	倍	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	千円	-	2,287,013	4,960,125	7,407,563	2,700,054
投資活動によるキャッシュ・フロー	千円	-	1,106,137	624,649	4,336,080	1,128,457
財務活動によるキャッシュ・フロー	千円	-	265,951	1,361,185	164,425	144,937
現金及び現金同等物の期末残高	千円	-	3,194,021	6,164,588	7,997,201	9,343,982
従業員数 [内、平均臨時雇用者数]	人	- [-]	781 [71]	839 [170]	817 [148]	837 [155]

- (注) 1. 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ)は含まれておりません。  
 2. 第70期連結会計年度より連結財務諸表を作成しているため、それ以前については記載しておりません。  
 3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。  
 4. 株価収益率については、非上場につき記載しておりません。

##### (2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	単位	第69期	第70期	第71期	第72期	第73期
		平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
売上高	千円	21,336,373	23,682,443	25,108,555	28,686,883	33,307,991
経常利益	千円	844,766	3,081,769	4,433,424	2,642,283	5,148,769
当期純利益	千円	571,052	1,285,529	1,985,949	2,693,612	3,049,033
持分法を適用した場合の投資利益	千円	-	-	-	-	-
資本金	千円	1,415,500	1,415,500	1,415,500	1,415,500	1,415,500
発行済株式総数	株	12,650,000	12,650,000	12,650,000	12,650,000	12,650,000
純資産額	千円	23,284,315	24,249,750	26,527,832	29,610,291	32,794,600
総資産額	千円	32,518,462	35,123,351	36,863,516	41,909,267	43,549,053
1株当たり純資産額	円	1,840.66	1,916.97	2,097.06	2,340.73	2,592.45
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額)	円	10.00 (-)	10.00 (-)	10.00 (-)	10.00 (-)	15.00 (-)
1株当たり当期純利益金額	円	45.14	101.62	156.99	212.93	241.03
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	円	-	-	-	-	-
自己資本比率	%	71.6	69.0	72.0	70.6	75.3
自己資本利益率	%	2.4	5.3	7.8	9.5	9.7
株価収益率	倍	-	-	-	-	-
配当性向	%	22.1	9.8	6.3	4.6	6.2
営業活動によるキャッシュ・フロー	千円	1,732,141	-	-	-	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	千円	2,023,637	-	-	-	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	千円	240,172	-	-	-	-
現金及び現金同等物の期末残高	千円	2,190,240	-	-	-	-
従業員数 [内、平均臨時雇用者数]	人	749 [-]	778 [71]	831 [167]	809 [145]	835 [152]

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
 2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。  
 3. 株価収益率については、非上場につき記載しておりません。  
 4. 持分法を適用した場合の投資利益については、持分法適用関連会社がないため記載しておりません。  
 5. 第70期より連結財務諸表を作成しているため、第70期以降の営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー及び現金及び現金同等物の期末残高は記載しておりません。

2【沿革】

年月	事項
昭和22年4月	千寿製薬株式会社（資本金19.5万円、大阪市天王寺区石ヶ辻町12番地）を設立、医薬品白血球増加剤パニールチンの製造販売を開始。
昭和24年6月	本社を大阪市西成区梅南通七丁目5番地に移転。
昭和24年9月	本社を大阪市東区平野町二丁目42番地に移転。工場を芦屋市岩園町482番地に移転。
昭和26年6月	武田薬品工業株式会社と当社製品全般に対する一手販売契約を締結。
昭和37年12月	伊丹市大鹿桜ヶ丘一丁目1番地に原料合成工場として伊丹工場を建設。
昭和40年5月	本社を大阪市北区北同心町一丁目83番地に移転。
昭和46年10月	伊丹工場敷地内に伊丹研究所を建設。
昭和47年3月	大阪市東区平野町三丁目28番地（甘糟ビル）に本社事務所を移設。
昭和48年4月	兵庫県神崎郡福崎町に工場用地として37,054.96㎡の土地を購入。
昭和49年6月	兵庫県神崎郡福崎町西治767番7に福崎工場を建設。
昭和49年10月	芦屋市岩園町の芦屋工場を廃止。
昭和53年2月	本社所在地を大阪市北区同心町二丁目1番13号と呼称変更。
昭和53年11月	大阪市東区平野町三丁目6番地の1（平野町センチュリービル7階）に本社事務所を移設。
昭和54年2月	株式会社バイコンを全額出資により設立。
昭和57年4月	株式会社日本ロックを全額出資により設立。
昭和57年10月	本社を大阪市東区平野町三丁目6番地の1に移転。
昭和58年12月	株式会社日本プライムケアを全額出資により設立。
昭和59年12月	株式会社バイコンの営業権をチバ・ビジョンケア・ジャパン株式会社へ譲渡。
昭和60年5月	株式会社バイコンを株式会社日本ロックに吸収合併。
昭和60年9月	福崎工場に増産及び新製品製造のための第2期工事完了。
平成元年2月	本社所在地を大阪市中央区平野町二丁目5番8号と表示変更。
平成2年9月	マルチ・グローブ・インターナショナル株式会社（現会社名 SENJU USA, INC.）を全額出資により米国カリフォルニア州ロサンゼルス市に設立。
平成3年6月	ショージン・リサーチ・アソシエイツ株式会社を全額出資により米国カリフォルニア州ロサンゼルス市に設立。
平成4年9月	千寿製薬株式会社の100%子会社である株式会社日本ロックを千寿製薬株式会社に吸収合併。
平成5年4月	神戸市西区室谷一丁目5番4号に研究所「コーベ・クリエイティブセンター」を建設。
平成10年3月	千寿製薬株式会社の100%子会社である株式会社日本プライムケアの清算終了。
平成13年4月	米国オレゴン州にオレゴン研究所「SLOS」(SENJU Laboratory of Ocular Sciences)を開設。
平成16年4月	オランダ ホーフドルフ市に欧州アムステルダム事務所を開設。
平成17年10月	株式会社セーバーを30%出資により設立。
平成18年4月	中華人民共和国 北京市に北京事務所を開設。
平成18年4月	神戸市中央区港島南町一丁目5番5号に研究所「オキュラーサイエンス研究所・神戸研究室」を開設。
平成20年9月	中華人民共和国 上海市に千寿医药咨询(上海)有限公司を全額出資により設立。
平成20年12月	ショージン・リサーチ・アソシエイツ株式会社を閉鎖。
平成21年3月	佐賀県唐津市石志4228番1に唐津工場を建設。
平成22年4月	セオリアファーマ株式会社を40%出資により設立。
平成22年10月	中華人民共和国 北京市に千寿製薬科技(北京)有限公司を全額出資により設立。
平成23年7月	中華人民共和国 上海市の千寿医药咨询(上海)有限公司を閉鎖。
平成23年7月	オランダ ホーフドルフ市の欧州アムステルダム事務所を閉鎖し、ベトナム ハノイ市にハノイ事務所を開設。
平成24年12月	ロシア モスクワにモスクワ事務所を開設。
平成25年4月	唐津工場に増産及び新製品製造のための第2期工事完了。

### 3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は当社（千寿製薬株式会社）、子会社3社及び関連会社1社により構成されており、当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

#### (1) 製薬事業

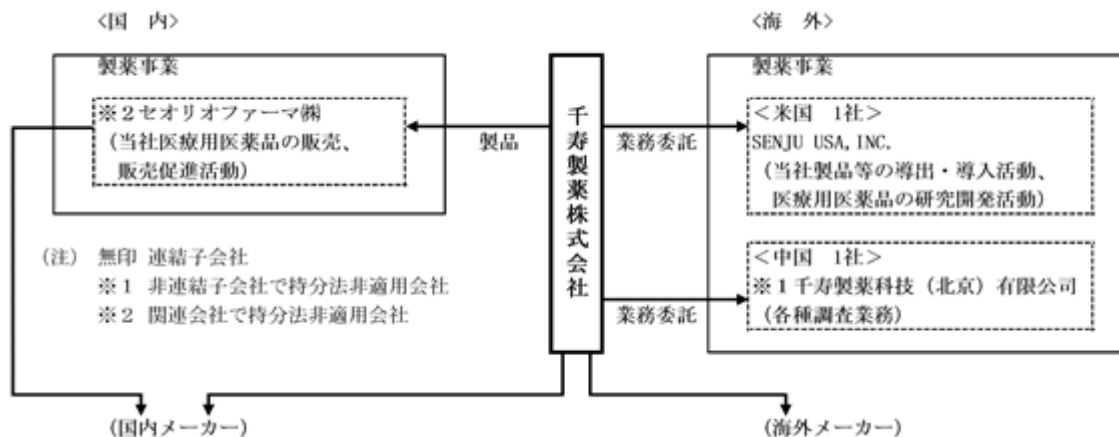
当社は眼科・耳鼻科用医薬品及びコンタクトレンズ用剤及び動物用医薬品の製造、販売を行っております。

#### (2) その他事業

当社が化粧品原料の製造、販売を行っております。

#### 【事業系統図】

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



子会社2社、関連会社1社は事業の規模が小規模で重要性がないため、連結の範囲から除いております。

### 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) SENJU USA, INC. (注) 2	米国カリフォルニア州	US \$ 12,800,000.00	製薬事業	100	米国市場における当社製品等の導出活動・導入活動の委託業務及び医療用医薬品の研究開発を行っております。
千寿製薬科技(北京)有限公司	中国北京市	35,000千円	製薬事業	100	中国市場における各種調査の委託業務を行っております。
セオリアファーマ株式会社	東京都港区	30,000千円	製薬事業	40	当社の医療用医薬品の販売、耳鼻咽喉科への販売促進活動を行っております。
その他・1社					

(注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 特定会社に該当しております。

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成26年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
製薬事業	781(138)
報告セグメント計	781(138)
その他事業	1(1)
全社(共通)	55(16)
合計	837(155)

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、年間の平均人員を( )内数で記載しております。

2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

### (2) 提出会社の状況

平成26年3月31日現在

従業員数(人)	平均年令(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
835(152)	41.7	15.2	7,990

セグメントの名称	従業員数(人)
製薬事業	781(137)
報告セグメント計	781(137)
その他事業	1(1)
全社(共通)	53(14)
合計	835(152)

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含む。)は、年間の平均人員を( )内数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

### (3) 労働組合の状況

従業員は昭和48年9月に千寿製薬労働組合を結成し、本社内に本部を設置し、本社支部、営業支部、神戸支部、福崎工場、唐津工場に支部を設置しており、平成26年3月31日現在における組合員数は504名であります。上部団体としては武田友好関係労働組合全国連合会を通じて、全国繊維化学食品流通サービス一般労働組合同盟(UAゼンセン)に加盟しております。

労使は協調的態度的もとに円満な関係を維持しています。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当連結会計年度における日本経済は、政府による経済政策や日銀の金融緩和政策による効果等を背景に公共事業投資の拡大や円高是正が図られ輸出環境が好転するなど企業収益も好転し、雇用・所得環境にも改善傾向があり、景気感に緩やかな回復の兆しが見られたものの、円安による原材料価格の上昇、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動などの影響により先行きの不透明感や不安感などの懸念材料も残り、本格的な景気回復にはいたらない状況で推移いたしました。

医薬品業界におきましては、後発医療品の使用促進政策の動きが強まっており、新薬開発の成功確率の低下の要因ともなりえる承認審査の厳格化、市場構造の変化などから、引き続き厳しい事業環境が続くものと予測されます。

このような状況のもと2012年度からスタートさせた'12年度 - '15年度中期計画の2年度目として「全社売上の拡大」「パイプラインの拡充」「海外事業の拡大」「事業体質の改善（生産性の向上）」を最重要課題にかかげ積極的に事業活動を展開し、今年度は特に利益を出し続ける利益体質（筋肉体質）への転換を目指し、「売上拡大」「コスト削減」だけでなく「効率性の追求」を意識し取り組みました結果、売上高は前年同期比16.1%増の333億7百万円となりました。

利益面におきましては、売上高及び受取技術料の伸張により、経常利益は48億88百万円（前年同期比96.9%増）となりました。

当期純利益につきましては、経常利益と同様の背景により、33億17百万円（前年同期比30.9%増）となりました。セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### [ 製薬事業 ]

緑内障・高眼圧症治療剤「アイファガン点眼液」が売上に大きく貢献し、又、緑内障・高眼圧症治療剤「ルミガン点眼液」、角結膜上皮障害治療用点眼剤「ティアバランス点眼液」、眼科手術用補助剤「オペリド眼粘弾剤」等が順調に増加しました。しかしながら緑内障・高眼圧症治療剤「ミケラン点眼液」、非ステロイド性抗炎症点眼剤「ニフラン点眼液」が前年を下回り、一般用目薬ではアレルギー専用目薬「マイティアアイテクトアルピタット」、「マイティアアイテクトアルピタットN」が前年を下回りました。

以上の結果、当事業における売上高は、332億49百万円となりました。

#### [ その他事業 ]

化粧品原料「EPC」が前年同期に比べ9.5%増加いたしましたことから、当事業における売上高は、58百万円となりました。

#### (2)キャッシュ・フロー

当連結会計年度末の現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、売上債権の増加、その他流動負債の減少等の要因により一部相殺されたものの、税金等調整前当期純利益が48億29百万円（前年同期比20.1%増）と増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ13億46百万円増加し、当連結会計年度末には93億43百万円となりました。

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は27億円（同63.5%減）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益が48億29百万円、減価償却費が31億円の計上があった一方、法人税等の支払21億16百万円、売上債権の増加10億56百万円、その他流動負債の減少5億51百万円、未払消費税等の減少4億89百万円等の減少によるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は11億28百万円（同73.9%減）となりました。これは主に保険満期解約による収入が50百万円、投資有価証券の売却による収入が50百万円があった一方、無形固定資産の取得による支出5億80百万円、有形固定資産の取得による支出3億73百万円、投資有価証券の取得による支出3億3百万円によるものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は1億44百万円（同11.8%減）となりました。これは主に配当金の支払い1億26百万円等によるものであります。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	前年同期比(%)
製薬事業(百万円)	32,419	145.0
報告セグメント計(百万円)	32,419	145.0
その他事業(百万円)	57	103.2
合計(百万円)	32,476	144.9

- (注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。  
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 商品仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	前年同期比(%)
製薬事業(百万円)	1,515	87.5
報告セグメント計(百万円)	1,515	87.5
その他事業(百万円)	-	-
合計(百万円)	1,515	87.5

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 受注状況

当社グループ(当社及び連結子会社、以下同じ)は見込み生産を行っているため、該当事項はありません。

### (4) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	前年同期比(%)
製薬事業(百万円)	33,249	116.1
報告セグメント計(百万円)	33,249	116.1
その他事業(百万円)	58	109.5
合計(百万円)	33,307	116.1

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。  
 2. 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。  
 3. 最近2連結会計年度における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
武田薬品工業(株)	25,060	87.3	29,495	88.6

### 3【対処すべき課題】

今後の医薬品業界は、高齢化社会の本格到来に伴う国の医療費抑制策として、新薬価制度により導入された長期収載品の薬価追加引き下げおよび後発品の使用促進の影響が大きく、また国内外の製薬企業の競争が一層激化していくなか、経営環境はますます厳しいものとなっております。

当社グループが厳しい環境変化のなかで、継続的な成長を実現するために対処すべきものとして引き続き、これら4つを最重要課題に掲げております。

#### (1) 「営業力強化による売上の拡大」

会社成長の源泉となる「売上」の拡大が成功を支える「大きな柱」であり、他社にはない独自の「競争優位性」を確立することが必須となります。そのために、MR増員にとどまらず、営業支援のシステム構築や各種マーケティング施策をより推進してきます。

#### (2) グローバル化の推進

恒久的な成長と経営のリスク分散のため「海外展開」を今以上に加速します。

#### (3) 「重点領域である網膜・角膜・緑内障でのパイプライン候補の獲得」

当社グループの「あるべき姿」を実現するために方策や行動を明確にし、「研究開発構想」の具現化を目指します。そのために、重点領域である網膜・角膜・緑内障を中心に世界戦略製品を含む「新規パイプライン」を獲得し、市場優位性を発揮していきます。

#### (4) 「利益を確保できる事業体質の獲得」

経営コストが増大するなか、適正な利益を確保するため「生産性の向上」は重要な経営課題であり、引き続き業務改善を進めていきます。また「全体最適」にも取り組み、より早く、効率的に、会社が利益体質になるように取り組んでまいります。

これらの中期戦略課題は'12-'15中期計画において着実に実行してまいります。

### 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

#### (1) 特定の取引先への高い取引依存リスク

当社グループ製品の販売については、その88%を武田薬品工業㈱に依存しており、販売契約を解消することになった場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に重要な影響を及ぼす可能性があります。

#### (2) 契約、提携等の解消のリスク

製品の販売及び商品の仕入、開発品の導入又は導出、共同研究等において他社と契約又は提携を行っています。何らかの事情によりこれらの契約又は提携を解消することになった場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に重要な影響を及ぼす可能性があります。

#### (3) 法的規制等に関するリスク

当社グループは、医薬品製造販売業のため薬事行政のもとで種々の規制を受けます。

また急速な少子高齢化が進むなか医療保険制度改革が実行され、その一環として概ね2年に1回の薬価基準の改訂による薬価引き下げや、医療制度に関する行政施策の動向は、当社グループの経営成績及び財政状態に重要な影響を及ぼす可能性があります。

#### (4) 医薬品の副作用に関するリスク

予期せぬ副作用等で発売中止、製品回収などの事態に発展した場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に重要な影響を及ぼす可能性があります。

#### (5) 医薬品の研究開発に関するリスク

医療用医薬品の研究開発には、多大な資金の投入と時間を必要としますが、開発中の品目のすべてが今後順調に進み新発売に至るとは限らず途中で断念せざるを得ない場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に重要な影響を及ぼす可能性があります。

#### (6) 訴訟に関するリスク

特許関連、製造物責任（PL）関連、環境関連、労務関連、その他に関して訴訟を提訴された場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に重要な影響を及ぼす可能性があります。

#### (7) 大規模災害に関するリスク

地震、台風などの突発的な自然災害、火災などの事故など発生した場合、当社グループの営業所、工場及び取引先が大規模な被害を受け事業活動が停滞し、また損害を被った設備などの修復のため多額の費用が発生するなど、当社グループの経営成績及び財政状態に重要な影響を及ぼす可能性があります。

上記以外にもさまざまなリスクがあり、ここに記載されたものが当社グループのすべてのリスクではありません。



## 5【経営上の重要な契約等】

### (1) 技術導入契約

相手方の名称	国名	契約品目	契約年度	契約期間	対価の支払
田辺三菱製薬㈱	日本国	ニフラン点眼液 (ブラスプロフェン)	1982	対象製品販売期間中	定率実施料
田辺三菱製薬㈱	日本国	(ジフルブレドナート)	1993	対象製品販売期間中	契約一時金及び定率実施料
京都薬品工業㈱	日本国	(イガニジピン)	1997	対象製品発売後15年	定率実施料
杏林製薬㈱	日本国	ガチフロ0.3%点眼液 (ガチフロキサシン水和物)	1997	対象製品販売期間中	契約一時金及び定率実施料
田辺三菱製薬㈱	日本国	(エカベトナトリウム)	1999	特許満了まで 商標を使用している場合は販売期間中	契約一時金及び定率実施料
田辺三菱製薬㈱	日本国	(ロック阻害剤)	2000	特許満了後5年間	契約一時金及び定率実施料
田辺三菱製薬㈱	日本国	(ベシル酸ベボタスチン)	2001	発売から20年 商標を使用している場合は販売期間中	契約一時金及び定率実施料
杏林製薬㈱	日本国	アイファガン点眼液 (プリモニジン)	2004	対象製品販売期間中	契約一時金及び定率実施料
アステラス製薬㈱	日本国	タリムス点眼液0.1% (タクロリムス水和物)	2005	発売から10年 その後自動更新	契約一時金及び定率実施料
Astellas Europe	オランダ	ピマリシン1%眼軟膏・5%点眼液 (ピマリシン)	1982	対象製品販売期間中	契約一時金及び定率実施料
Wyeth (Pfizer)	アメリカ	プロナック点眼液 (プロムフェナクナトリウム水和物)	1989	特許満了まで	契約一時金及び定率実施料
Allergan Inc.	アメリカ	ルミガン点眼液0.03% (ピマトプロスト)	2004	対象製品販売期間中	契約一時金及び定率実施料
日本ケミファ㈱	日本国	(Peroxisome Proliferator Activated Receptors)	2008	特許満了まで	契約一時金及び定率実施料
アステラス製薬㈱	日本国	(FK962)	2009	対象製品発売後8年あるいは 特許満了日までのいずれか長い期間	契約一時金及び定率実施料
Tufts University	アメリカ	(ガレクチン)	2009	特許満了まで	契約一時金及び定率実施料
Allegro Ophthalmics, LLC	アメリカ	Integrin Peptide	2012	発売から10年あるいは特許満了日までの いずれか長い期間	契約一時金及び定率実施料
InSite Vision	アメリカ	(アジスロマイシン)	2013	特許満了日あるいは再審査期間のいずれか 長い期間	契約一時金及び定率実施料

### (2) 技術導出契約

相手方の名称	国名	契約品目	契約年度	契約期間	対価の支払
Allergan Lok	ブラジル	Difen (ブラスプロフェン)	1986	自動更新	別途定める原薬代に含める
Meda	ベルギー	Pranox (ブラスプロフェン)	1990	自動更新	定率実施料
Choongwae Phama Corporation	韓国	Pranopulin (ブラスプロフェン)	1998	対象製品販売期間中	別途定める原薬代に含める
SIFI	イタリア	Pranoflog (ブラスプロフェン)	1998	対象製品発売後10年あるいは 特許満了日までのいずれか長い期間	契約一時金及び定率実施料
Ista Pharmaceuticals, Inc	アメリカ	Bromday (プロムフェナクナトリウム水和物)	2002	発売後10年	契約一時金及び定率実施料
Ista Pharmaceuticals, Inc	アメリカ	ISTALOL (チモロールマレイン酸塩)	2002	特許満了まで	契約一時金及び定率実施料
Ista Pharmaceuticals, Inc	アメリカ	(エカベトナトリウム)	2004	対象製品発売後20年 指定商標を使用の場合は自動更新	契約一時金及び定率実施料
Novartis Phama AG	スイス	(ロック阻害剤)	2005	対象製品販売期間中	契約一時金及び定率実施料
Croma Phama GmbH	オーストリア	(プロムフェナクナトリウム水和物)	2005	対象製品発売後10年	契約一時金及び定率実施料
Tianjin Central Phamaeical Co., Ltd.	中国	(チモロールマレイン酸塩)	2005	対象製品発売後10年あるいは 特許満了日までのいずれか長い期間	契約一時金及び定額実施料
Ista Pharmaceuticals, Inc	アメリカ	(ベシル酸ベボタスチン)	2006	対象製品発売後20年 指定商標を使用の場合は自動更新	契約一時金及び定率実施料
Ista Pharmaceuticals, Inc	アメリカ	(プロスタグランジン)	2006	対象製品発売後10年あるいは 特許満了日までのいずれか長い期間	契約一時金及び定率実施料
Ista Pharmaceuticals, Inc	アメリカ	(イガニジピン)	2006	対象製品発売後10年あるいは 特許満了日までのいずれか長い期間	契約一時金及び定率実施料
Alcon Pharmaceuticals Ltd..	アメリカ	Durezol (ジフルブレドナート)	2006	対象製品発売後10年あるいは 特許満了日までのいずれか長い期間	契約一時金及び定率実施料
Jeil Pharmaceutical Co., Ltd.	韓国	(エカベトナトリウム)	2007	対象製品発売後10年あるいは 特許満了日までのいずれか長い期間	契約一時金及び定率実施料
Jamjoom Pharma	サウジ アラビア	(プロムフェナクナトリウム水和物)	2008	対象製品販売期間中	契約一時金及び定率実施料
Centaur Pharmaceuticals Pvt., Ltd.	インド	Brompure (プロムフェナクナトリウム水和物)	2009	対象製品発売後10年	定率実施料
Centaur Pharmaceuticals Pvt., Ltd.	インド	Glucotim-LA (チモロールマレイン酸塩)	2009	対象製品発売後15年	契約一時金及び定率実施料
Tae-Joon Phama.Co., Ltd.	韓国	(チモロールマレイン酸塩)	2010	対象製品発売後15年	契約一時金及び定率実施料

(3) 販売契約（導入）

相手方の名称	国名	契約品目	契約年度	契約期間	対価の支払
大塚製薬(株)	日本国	ミケラン点眼液1%、2% (塩酸カルテオロール)	1995	自動更新	
杏林製薬(株)	日本国	ケタス点眼液0.01% (イブシラスト)	1999	2009年3月31日まで その後自動更新	
杏林製薬(株)	日本国	バクシダール点眼液 (ノルフロキサシン)	1999	2009年3月31日まで その後自動更新	
あすか製薬(株)	日本国	タジン錠30 (カルバゾクロムスル ホン酸ナトリウム)	1999	自動更新	
大塚製薬(株)	日本国	ミケランL A点眼液 (塩酸カルテオロール)	1999	特許満了まで その後自動更新	契約一時金
(株)資生堂	日本国	オペリド (ヒアルロン酸ナトリウム)	2006	2016年3月31日まで その後自動更新	
テイカ製薬(株)	日本国	レボカバステン点眼液0.025%「TS」 (塩酸レボカバステン)	2008	2013年4月22日まで その後自動更新	契約一時金

(4) 販売契約（導出）

相手方の名称	国名	契約品目	契約年度	契約期間	対価の支払
武田薬品工業(株)	日本国	当社製品全般	1951	1年宛自動延長	
あすか製薬(株)	日本国	ベストロン耳鼻科用 (塩酸セフェノキシム)	1996	自動更新	
杏林製薬(株)	日本国	ベストロン耳鼻科用 (塩酸セフェノキシム)	1999	自動更新	
大塚製薬(株)	日本国	オベガード ネオキット (オキシグルタチオン)	2001	自動更新	
あすか製薬(株)	日本国	ロメフロム耳科用液 (塩酸ロメフロキサシン)	2001	自動更新	
三菱商事(株)	日本国	Catalin (ビレノキシン)	2007	2012年3月31日まで その後自動更新	
JW Pharmaceutical Corporation	韓国	Bestron for Eye (塩酸セフェノキシム) Lomeflon Solution for Ear (塩酸ロメフロキサシン)	1996	自動更新	
Sama Pharmaceutical	韓国	Bestron for Ear and Nose (塩酸セフェノキシム)	2001	自動更新	
イスクラ産業(株)	日本国	カタリン点眼液 (ビレノキシン)	2008	締結日から5年 その後自動更新	
Orient Europharma Co.,Ltd.	台湾	B ronuck (ブロムフェナクナトリウム水和物)	2008	対象製品発売後7年 その後自動更新	
Shenzhen Relin	中国	Pranopulin (プラノプロフェン) Bronuck (ブロムフェナクナトリウム水和物)	2009	締結日から2年 その後3年毎自動更新	
Hai Nan Dong Fang Pharmaceutical Co., Ltd.	中国	ヒアルロン酸点眼液	2009	締結日から3年 その後自動更新	
Japan and Vietnam Medical Instrument Co., Ltd.	ベトナム	Bronuck (ブロムフェナクナトリウム水和物)	2009	締結日から5年 その後自動更新	
Japan and Vietnam Medical Instrument Co., Ltd.	ベトナム	ティアバランス (ヒアルロン酸点眼液)	2009	締結日から5年 その後自動更新	
Tae-Joon Phama Co.,Ltd.	韓国	Bronuck (ブロムフェナクナトリウム水和物)	2010	締結日から10年 その後自動更新	契約一時金
Hai Nan Dong Fang Pharmaceutical Co., Ltd.	中国	Catalin (ビレノキシン)	2010	締結日から3年 その後自動更新	
セオリアファーマ(株)	日本国	ベストロン耳鼻科用1% (塩酸セフェノキシム) ロメフロム耳鼻科用0.3% (塩酸ロメフロキサシン)	2011	締結日から5年 その後自動更新	
MQ Pharma Corporation	中国	Bronuck (ブロムフェナクナトリウム水和物)	2012	締結日から3年 その後自動更新	

## 6【研究開発活動】

当社グループは、医療用医薬品分野におきまして、眼科用剤を中心に、世界の医療ニーズに応えるべく、オキュラーサイエンス研究所、研究開発本部、並びに製品戦略室が中心となって、幅広く積極的な医薬品の開発に取り組んでおります。

「オキュラーサイエンス研究所」は最先端の技術と情報を駆使して眼疾患の原因となる分子を同定し、効率的に治療薬を創製する3つの研究室（米国オレゴン研究室、創薬基盤グループ、創薬設計グループ）で構成されております。

「研究開発本部」は、新製品の承認申請等に必要となる非臨床試験を実施する新薬研究室、前臨床研究室（薬理グループ、薬物動態グループ、製剤グループ、分析グループ）および安全性研究室、臨床試験等を実施するレギュラトリーサイエンス部、臨床開発部、育薬企画部、臨床研究推進室で構成されております。

また、事業性を十分に考慮した製品開発を効率的に行うべく、経営戦略本部内に「製品戦略室」を新設し、製品ポートフォリオマネジメントに基づく研究開発戦略の全体最適化を図っております。

眼科用剤におきましては、平成21年および平成24年に緑内障・高眼圧症治療剤「ルミガン点眼液0.03%」および「アイファガン点眼液0.1%」を発売し、緑内障・高眼圧症の患者さまに対する新たな治療の選択肢を提供してまいりました。

今後も、網膜疾患治療剤（インテグリン・ペプチド治療薬）などの治療効果に優れた製品の開発が進行中であり、順次上市を目指して開発を進めております。

さらに、アジア諸国におきましても、平成25年6月に春季カタル治療剤「タリムス点眼液0.1%」が中国において輸入販売承認されたことをはじめ、各国にて複数の製開発を進めております。

なお、当連結会計期間の研究開発費の総額は42億52百万円であり、セグメント別に示すと以下のとおりであります。

### [ 製薬事業 ]

製薬事業に係る研究開発費は42億52百万円であります。

### [ その他事業 ]

その他事業に係る研究開発費は発生しておりません。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成に当たりまして、報告数値に影響を与える見積りは、その時点で最も合理的と考えられる基準にて実施しておりますが、見積り等の不確実性があるため実際の結果は異なる場合があります。

なお、当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1)連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

経営成績の分析につきましては、第2「事業の状況」1「業績等の概要」(1)業績をご参照ください。

### (3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループを取り巻く事業環境は非常に競争が厳しく、また、薬価基準改訂、受診者負担増を始めとした医療費抑制策強化など、薬剤費抑制の傾向が一層強まっております。

重要な影響を与える要因については、外的要因として、主に眼科薬領域における新薬の開発販売競争の激化と薬価基準改訂、受診者負担増等の社会的要因を考慮しており、内的要因として、武田薬品工業株式会社との「一手販売の契約」(1年宛自動延長)の継続及び、ガバナンス体制の維持を考慮しております。

### (4) 戦略的現状と見通し

当社グループといたしましては、これらの状況を踏まえて、新製品の開発力と営業力の強化及び、これらを支える強固な経営基盤の実現を目指して、体質改善をさらに進めます。

なお、販売面では、前連結会計年度に新発売しました緑内障・高眼圧症治療薬としては国内初のアドレナリン2受容体作動薬である「アイファガン点眼液」と既存品である緑内障・高眼圧症治療剤「ルミガン点眼液」、非ステロイド性抗炎症点眼剤「プロナック点眼液」等が、売上高、損益ともに寄与するものと見込んでおります。

### (5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

経営成績の分析につきましては、第2「事業の状況」1「業績等の概要」(2)キャッシュ・フローをご参照ください。

### (6) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループの経営陣は、現在の事業環境及び入手可能な情報に基づき最善の経営方針を立案するよう努めておりますが、医薬品業界における薬価基準改訂、受診者負担増を始めとした医療費抑制策強化など、薬剤費抑制の傾向が一層強まっており、当社グループを取り巻く事業環境はさらに厳しさを増すことが予想されます。

その中で、最重要課題を「営業力強化による売上の拡大」、「アメリカ・中国における事業拡大、その他諸外国での事業化の推進(グローバル化の推進)」、「重点領域である網膜・角膜・緑内障でのパイプライン獲得」及び、「利益を確保できる事業体質の獲得」とし、また、武田薬品工業株式会社との「一手販売の契約」及びガバナンス制度の維持にも引き続き注力いたします。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループでは、当連結会計年度に実施いたしました設備投資の総額は9億49百万円であり、すべて自己資金で賄っております。

製薬事業においては、生産設備、試験研究設備を中心に2億45百万円、IT投資関連に3億63百万円の設備投資を実施しました。

その他事業においては、新たな設備投資はありません。

なお、当連結会計年度において重要な設備の徐却、売却等はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

平成26年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積㎡)	リース資産	工具器具 及び備品	建設仮勘 定		合計
福崎工場 (兵庫県神崎郡福崎町)	製薬事業	医薬品 生産設備	529,200	264,587	143,483	30,502	73,157	-	1,040,931	132
唐津工場 (佐賀県唐津市)	製薬事業	医薬品 生産設備	1,729,819	1,456,912	455,980	259	75,430	-	3,718,401	80
神戸クリエイティブセン ター (神戸市西区)	製薬事業	研究開発 施設設備	518,545	3,072	984,165	380	207,901	-	1,714,064	85
本社及び営業所 (本社・大阪市中央区、 営業所全国12ヶ所)	製薬事業	その他 設備	29,899	7,637	-	16,229	133,664	-	187,430	534
	その他事 業	その他 設備	-	-	-	-	-	-	-	1
厚生施設 社宅、保養所、研修所	製薬事業	-	888,571	940	441,859	-	35,627	7,000	1,373,998	3

(注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。

2. 建物を賃借しております。年間賃借料は17百万円であります。

##### (2) 在外子会社

平成25年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内 容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)	
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積㎡)	リース資 産	工具器具 及び備品	その他		合計
SENJU USA, INC.	本社 (米国)	製薬事業	事務機器	-	-	-	-	1,601	-	1,601	2

(注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。

#### 3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、販売計画、生産計画及び、研究開発投資計画並びに、資金計画及び、利益計画に基づき総合的に勘案して計画しております。

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設等に係る投資予定金額は8億95百万円です。その所要資金については、すべて自己資金で賄う予定であります。

重要な設備の新設等の計画は以下のとおりであります。

##### (1) 重要な設備の新設

事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定年月	
				総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了
福崎工場	兵庫県神崎 郡	製薬事業	医薬品 生産設備	155,000	-	自己資金	平成25年5月	平成26年8月
唐津工場	佐賀県唐津 市	製薬事業	医薬品 生産設備	56,000	-	自己資金	平成25年8月	平成26年9月
本社及び営業所	大阪府大阪 市	製薬事業	その他 設備	23,000	-	自己資金	平成25年4月	平成26年9月

(2) 重要な設備の改修  
計画はありません。

(3) 重要な設備の売却  
計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,600,000
計	50,600,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年6月27日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	12,650,000	12,650,000	非上場	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、当社は単元株制度は採用していません。
計	12,650,000	12,650,000	-	-

(注) 当社の発行する全部の株式について、譲渡による当該株式の取得には、代表取締役社長の承認を要する旨を定款に定めております。

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(千株)	発行済株式総数 残高(千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金残高 (千円)
昭和63年6月28日	2,150	12,650	365,500	1,415,500	365,500	1,190,500

(注) 新株引受権付社債の権利行使による増加(昭和63年6月28日) 2,150,000株

#### (6)【所有者別状況】

平成26年3月31日現在

区分	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	合計
					個人以外	個人		
株主数(人)	-	6	1	22	-	-	303	332
所有株式数(株)	-	3,370,500	177,000	3,779,450	-	-	5,323,050	12,650,000
所有株式数の割合 (%)	-	26.6	1.4	29.9	-	-	42.1	100

#### (7)【大株主の状況】

平成26年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合 (%)
有限会社ホロス	兵庫県西宮市段上町4丁目9-21	1,800	14.2
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目13-1	1,254	9.9
武田薬品工業株式会社	大阪市中央区道修町4丁目1-1	1,050	8.3
吉田 祥二	兵庫県芦屋市	722	5.7
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	632	5.0
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1-2	595	4.7
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4-1	554	4.3
株式会社イチネンホールディングス	大阪市淀川区西中島4丁目10-6	250	1.9
株式会社メディバルホールディングス	東京都中央区八重洲2丁目7-15	240	1.8
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3-3	235	1.8
計	-	7,334	58.0

( 8 ) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	
議決権制限株式(その他)	-	-	
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,650,000	12,650,000	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	-	-	
発行済株式総数	12,650,000	-	
総株主の議決権	-	12,650,000	

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

該当事項はありません。

3 【配当政策】

当社は業績に対応した配当を基本的な考え方とし、更に配当性向と企業体質強化のための内部留保の充実を勘案して配当を決定しております。一方、株主への利益還元も重要な課題のひとつと考え、多少の業績の変動にもかかわらず一貫して1株当たり10円の配当を続けてまいりました。

当社は、期末配当の年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、株主総会であります。

当期の配当につきましては、上記方針に基づき1株当たり10円の配当と特別配当(売上300億円の達成と過去最高の経常利益の計上)5円を加えた15円を実施することに決定いたしました。

この結果配当性向は6.2%となりました。

当社の内部留保金は、研究開発力の強化と経営体質の一層の充実を図るため有効投資してまいりたいと考えております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成26年6月27日 定時株主総会決議	189,750	15

4 【株価の推移】

当社株式は非上場でありますので、該当事項はありません。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長 (代表取締役)		吉田 祥二	昭和18年3月12日生	昭和49年3月 当社入社 昭和49年3月 取締役就任 昭和51年5月 専務取締役就任 昭和53年6月 代表取締役社長就任 平成18年6月 代表取締役会長就任(現任)	(注)3	722
取締役社長 (代表取締役)		吉田 有宏	昭和44年1月17日生	平成5年4月 当社入社 平成12年4月 経営戦略本部長 平成12年6月 取締役就任 平成14年6月 常務取締役就任 平成15年6月 専務取締役就任 平成15年6月 医薬統括兼経営戦略本部長 平成18年6月 代表取締役社長就任(現任)	(注)1・3	173
取締役副社長	管理本部長 兼事業戦略 本部長	吉田 周平	昭和47年6月29日生	平成7年4月 当社入社 平成14年4月 一般薬品本部・副本部長 平成14年6月 取締役就任 平成16年4月 一般薬品本部長 平成18年6月 専務取締役就任 平成18年6月 事業戦略室長兼管理本部長 平成20年10月 事業戦略室長兼管理本部長兼一般薬品本部長 平成21年10月 事業戦略本部長兼管理本部長兼一般薬品本部長 平成22年6月 取締役副社長就任(現任) 平成22年8月 管理本部長兼一般薬品本部長 平成24年4月 管理本部長 平成24年8月 管理本部長兼事業戦略本部長(現任)	(注)2・3	158
取締役	研究本部長 兼オキュ ラーサイ エンス研 究所長	東 光佳	昭和34年2月13日生	昭和56年4月 当社入社 平成9年12月 コーベクリエティブセンター長 平成18年7月 リサーチビジネス本部オキュラーサイエンス研究所長 平成22年8月 研究本部長兼オキュラーサイエンス研究所長(現任) 平成25年6月 取締役就任(現任)	(注)3	-
取締役	医薬マーケ ティング本 部長	榎田 高志	昭和33年2月7日生	昭和57年4月 当社入社 平成5年5月 眼科事業部営業部千葉埼玉営業所長 平成17年4月 医薬営業本部営業推進部長 平成18年7月 医薬営業本部長 平成22年10月 医薬マーケティング本部長(現任) 平成25年6月 取締役就任(現任)	(注)3	-
監査役		山崎 明美	昭和23年12月30日生	昭和50年4月 当社入社 昭和63年6月 福崎工場長 平成14年6月 取締役就任 平成17年6月 生産本部長 平成24年6月 監査役就任(現任)	(注)4	5
監査役		古田 博	昭和24年11月21日生	昭和47年4月 当社入社 平成11年10月 経理部長 平成22年6月 監査役就任(現任)	(注)5	7
計						1,066

(注)1. 代表取締役社長 吉田有宏は、代表取締役会長 吉田祥二の長男であります。

2. 取締役副社長 吉田周平は、代表取締役会長 吉田祥二の次男であります。

3. 平成26年6月27日開催の定時株主総会の終結のときから2年間

4. 平成24年6月28日開催の定時株主総会の終結のときから4年間

5. 平成25年6月27日開催の定時株主総会の終結のときから4年間



## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは「Good Company」を経営理念としております。その実現のため、「If I were you」を行動理念とし、ステークホルダーと良好な関係を築き、必要とされる製品の創出を行っていく事により長期安定的な成長を遂げていく事が重要と考えております。このような中で、社員としての行動指針を明文化した「SENJU SENSE」を制定し、法令の遵守、透明性・効率性の向上、迅速な意思決定と業務遂行、そしてこれらに対する監督機能の強化に取り組んでまいりました。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

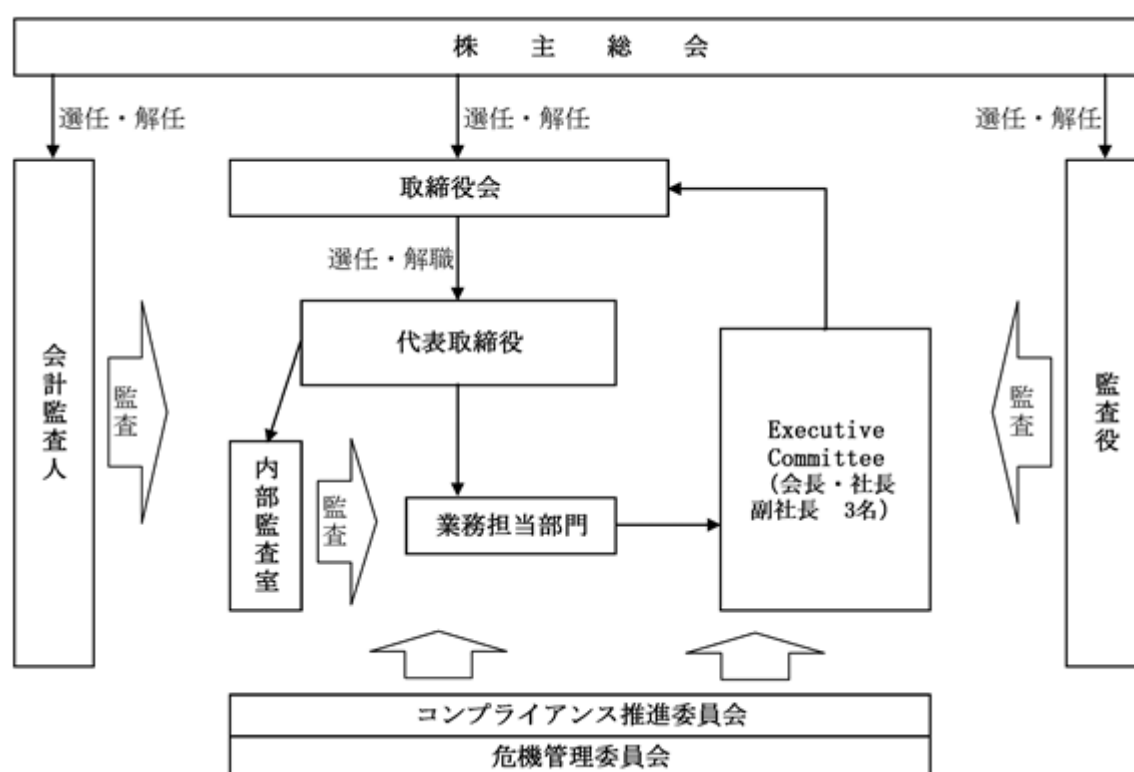
#### イ．会社の機関の基本説明

当社は監査役制度を採用しております。監査役は、取締役の職務執行について、適法性、効率性の観点から、厳正な監視を行っております。

法令遵守については、コンプライアンス推進規程に従いコンプライアンス推進委員会において対応しており、コンプライアンス行動基準に沿った行動の徹底を図っております。

内部監査は、代表取締役の指示により内部監査担当が行っており、同委員会と連携のうえ、コンプライアンスの状況を監査しております。

#### ロ．会社機関・内部統制の関係図



#### ハ．会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムと致しましては、取締役会は、経営方針や法令で定められた事項、またその他経営に関する事項を検討及び決定するとともに、業務執行状況の監督機関として位置付けております。

Executive Committeeは、取締役会の経営に関する事項の検討及び決定を効率的に行うために、付議事項の事前審議を行っております。構成は、必要に応じて実務責任者・担当者を加えております。

但し、製品回収等の経営に関する重要な事項では、薬事法等関係法令の定めに従い、経営意思決定機関とは別の組織により意思決定を行っております。

#### 二．内部監査及び監査役監査の状況

当社の内部監査につきましては、通常の業務部門とは独立した社長直轄の内部監査人(1名)が、年度毎に作成する「監査計画」に基づき当社の全ての事業所の経営活動における法令遵守状況と内部統制の有効性・効率性について定期的に検討・評価しております。内部監査の過程で確認された問題点、改善点等は直接社長へ報告するとともに改善のための提言を行っております。

監査役は監査方針及び監査計画に従い監査を行っております。また、取締役会など重要会議への出席、重要な決裁書類・資料の閲覧、各部・事業所など多面的な監査を行っております。

ホ. 会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は樋口秀和、樋口和寿であり、聖徳公認会計士共同監査事務所の構成員であります。

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士3名です。

また、意見表明に先立ち、公認会計士 戸奈常光の審査を受けております。

監査役は内部監査人及び会計監査人と定期的に綿密な情報・意見交換を行うことにより監査体制の充実を図っております。

リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制は、「事業等のリスク」に記載した当社グループ特有のリスクについては、Executive Committeeにおいて対応しており、一般的リスクは、危機管理規程（平成13年7月2日制定）に従い危機管理委員会（委員長：管理本部長）において対応しております。

但し、法令によりリスク管理体制が定められている場合には、法令の定めに従いリスク管理を行っております

役員報酬の内容

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役	239,037	169,037	-	70,000	6
監査役	12,600	12,600	-	-	2

責任限定契約の内容の概要

当社と会計監査人 樋口秀和・樋口和寿は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任の限度額は法令が定める最低責任限度額としております。

取締役の定数

当社の取締役は、3名以上とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨も定款に定めております。

取締役の解任決議要件

当社は、取締役の解任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役(取締役であった者を含む。)及び監査役(監査役であった者を含む。)の損害賠償責任を法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。

これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	14,720	-	14,720	-
連結子会社	-	-	-	-
計	14,720	-	14,720	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は特に定めておりません。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表について、公認会計士 樋口秀和氏、公認会計士 樋口和寿氏により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適正に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、各種団体が開催するセミナーへの参加等を通じ、適時の情報入手に努めております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	7,997,201	9,343,982
受取手形及び売掛金	6,956,834	8,013,038
商品及び製品	1,820,126	2,186,842
仕掛品	450,676	406,139
原材料及び貯蔵品	1,039,412	1,168,332
未収入金	1,259,343	1,309,275
繰延税金資産	559,275	575,630
その他	434,843	807,070
貸倒引当金	8,406	8,973
流動資産合計	20,509,307	23,801,337
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	10,791,518	11,390,029
減価償却累計額	7,397,452	7,693,994
建物及び構築物(純額)	3,394,065	3,696,035
機械装置及び運搬具	9,036,049	11,269,376
減価償却累計額	7,479,114	9,008,843
機械装置及び運搬具(純額)	1,556,934	2,260,533
土地	2,025,487	2,025,487
リース資産	189,720	189,720
減価償却累計額	108,611	142,347
リース資産(純額)	81,108	47,372
建設仮勘定	2,892,906	7,000
有形固定資産合計	9,950,502	8,036,428
<b>無形固定資産</b>		
特許権	3,380,394	3,079,220
ソフトウェア	722,069	742,215
その他	2,715	3,280
無形固定資産合計	4,105,178	3,824,716
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1 4,021,266	1 4,670,936
長期貸付金	564,252	551,387
保険積立金	609,166	593,590
投資不動産	838,189	838,189
その他	317,849	313,842
為替予約	674,128	915,368
貸倒引当金	16,952	15,052

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
投資その他の資産合計	7,007,900	7,868,262
固定資産合計	21,063,582	19,729,408
資産合計	41,572,889	43,530,745
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,529,858	2,324,349
リース債務	35,437	25,816
未払法人税等	1,425,935	1,117,384
賞与引当金	742,278	729,676
返品調整引当金	30,236	20,783
未払金及び未払費用	4,397,076	3,758,775
その他	379,822	355,673
流動負債合計	9,540,644	8,332,458
固定負債		
リース債務	47,372	21,556
繰延税金負債	569,246	469,487
退職給付引当金	1,412,132	-
役員退職慰労引当金	712,038	678,536
退職給付に係る負債	-	1,222,517
資産除去債務	11,393	11,589
為替予約	7,743	-
固定負債合計	2,759,926	2,403,687
負債合計	12,300,571	10,736,145
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,415,500	1,415,500
資本剰余金	1,190,500	1,190,500
利益剰余金	24,841,566	28,032,488
株主資本合計	27,447,566	30,638,488
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,738,404	1,995,375
繰延ヘッジ損益	4,804	-
為替換算調整勘定	91,151	160,736
その他の包括利益累計額合計	1,824,751	2,156,111
純資産合計	29,272,318	32,794,600
負債純資産合計	41,572,889	43,530,745

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上高	28,686,883	33,307,991
売上原価	10,006,923	10,958,071
売上総利益	18,679,960	22,349,920
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 18,256,053	<sup>1</sup> 21,117,785
営業利益	423,907	1,232,134
営業外収益		
受取利息	20,358	23,717
受取配当金	65,344	71,569
為替差益	-	807,138
受取技術料	2,097,022	2,581,129
保険返戻金	71,791	71,791
その他	185,064	162,898
営業外収益合計	2,439,582	3,718,245
営業外費用		
為替差損	350,713	-
たな卸資産評価損	-	40,635
その他	30,073	21,369
営業外費用合計	380,787	62,005
経常利益	2,482,702	4,888,374
特別利益		
特許権許諾料	-	8,640
固定資産売却益	<sup>2</sup> 48	<sup>2</sup> 447
為替差益	1,676,818	-
その他	11,302	-
特別利益合計	1,688,169	9,087
特別損失		
固定資産除却損	<sup>4</sup> 37,335	<sup>4</sup> 30,151
固定資産売却損	<sup>3</sup> 99,444	-
たな卸資産廃棄損	13,112	33,221
その他	<sup>5</sup> 937	5,000
特別損失合計	150,829	68,373
税金等調整前当期純利益	4,020,041	4,829,088
法人税、住民税及び事業税	1,445,456	1,769,690
法人税等調整額	40,554	258,023
法人税等合計	1,486,010	1,511,666
少数株主損益調整前当期純利益	2,534,030	3,317,422
少数株主利益	-	-
当期純利益	2,534,030	3,317,422

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	2,534,030	3,317,422
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	488,703	256,970
繰延ヘッジ損益	26,643	4,804
為替換算調整勘定	136,055	69,585
その他の包括利益合計	1,651,402	1,331,359
包括利益	3,185,433	3,648,782
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	3,185,433	3,648,782
少数株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	1,415,500	1,190,500	22,434,035	25,040,035
当期変動額				
剰余金の配当			126,500	126,500
当期純利益			2,534,030	2,534,030
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計	-	-	2,407,530	2,407,530
当期末残高	1,415,500	1,190,500	24,841,566	27,447,566

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘 定	その他の包括利 益累計額合計	
当期首残高	1,249,701	31,447	44,903	1,173,349	26,213,384
当期変動額					
剰余金の配当					126,500
当期純利益					2,534,030
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	488,703	26,643	136,055	651,402	651,402
当期変動額合計	488,703	26,643	136,055	651,402	3,058,933
当期末残高	1,738,404	4,804	91,151	1,824,751	29,272,318



当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	1,415,500	1,190,500	24,841,566	27,447,566
当期変動額				
剰余金の配当			126,500	126,500
当期純利益			3,317,422	3,317,422
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計	-	-	3,190,922	3,190,922
当期末残高	1,415,500	1,190,500	28,032,488	30,638,488

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘 定	その他の包括利 益累計額合計	
当期首残高	1,738,404	4,804	91,151	1,824,751	29,272,318
当期変動額					
剰余金の配当					126,500
当期純利益					3,317,422
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	256,970	4,804	69,585	331,359	331,359
当期変動額合計	256,970	4,804	69,585	331,359	3,522,282
当期末残高	1,995,375	-	160,736	2,156,111	32,794,600

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	4,020,041	4,829,088
減価償却費	2,101,650	3,100,423
減損損失	251	-
退職給付引当金の増減額（は減少）	189,458	-
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	16,073	33,501
返品調整引当金の増減額（は減少）	6,932	9,453
賞与引当金の増減額（は減少）	53,971	12,601
貸倒引当金の増減額（は減少）	25,320	1,333
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	-	189,615
受取利息及び受取配当金	85,703	95,286
為替差損益（は益）	40,212	93,679
投資有価証券売却損益（は益）	10,852	-
無形固定資産除却損	-	8,154
有形固定資産売却損益（は益）	99,396	447
有形固定資産除却損	37,335	21,996
売上債権の増減額（は増加）	81,832	1,056,204
たな卸資産の増減額（は増加）	493,699	451,098
その他の流動資産の増減額（は増加）	4,117	74,424
仕入債務の増減額（は減少）	123,268	170,315
その他の流動負債の増減額（は減少）	1,771,151	551,208
未払消費税等の増減額（は減少）	53,520	489,518
保険返戻金	71,791	50,094
出資金評価損	-	5,000
その他	19,328	39,673
小計	8,124,421	4,725,554
利息及び配当金の受取額	85,389	91,105
法人税等の支払額	802,247	2,116,605
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,407,563	2,700,054

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	300,000	-
投資有価証券の取得による支出	644,740	303,728
投資有価証券の売却による収入	592,583	50,000
有形固定資産の取得による支出	2,584,008	373,381
有形固定資産の売却による収入	23,570	1,428
無形固定資産の取得による支出	2,061,407	580,477
ゴルフ会員権の売却による収入	-	1,920
投資その他の資産の増減額(は増加)	13,449	12,821
長期貸付金の回収による収入	8,090	15,865
長期貸付けによる支出	54,200	3,000
保険積立金の払戻による収入	71,791	50,094
その他	1,209	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,336,080	1,128,457
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	37,925	18,437
配当金の支払額	126,500	126,500
財務活動によるキャッシュ・フロー	164,425	144,937
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,074,444	79,879
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,832,613	1,346,780
現金及び現金同等物の期首残高	6,164,588	7,997,201
現金及び現金同等物の期末残高	7,997,201	9,343,982

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 1社

連結子会社の名称

SENJU USA, INC.

(2) 主要な非連結子会社の名称等

主要な非連結子会社

千寿製薬科技(北京)有限公司

(株)セーバー

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用会社はありません。

(2) 持分法を適用していない非連結子会社(千寿製薬科技(北京)有限公司、(株)セーバー)及び関連会社(セオリアファーマ(株))は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうちSENJU USA, INC.の決算日は、12月31日であります。

連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、1月1日から連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

ロ デリバティブ

時価法

ハ たな卸資産

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産(リース資産を除く)

当社は定率法を、また、在外連結子会社は所在地国の会計基準に基づく定額法を採用しております。

ただし、当社は平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)は定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 10～38年

機械装置及び運搬具 4～8年

ロ 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

ハ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

当社は売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

また、在外連結子会社は主として特定の債権について回収不能見込額を計上しております。

ロ 返品調整引当金

当社において、返品による損失に備えるため、過去の実績により計上しております。

ハ 賞与引当金

当社及び在外子会社は従業員の賞与支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

- 二 役員退職慰労引当金  
当社は役員退職慰労金支給に備えて、内規に基づく期末要支給額の100%を計上しております。
- (4) 退職給付に係る会計処理の方法
- イ 退職給付見込額の期間帰属方法  
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。
- ロ 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法  
数理計算上の差異及び過去勤務費用は発生年度に全額費用処理しております。
- (5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準  
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債並びに収益及び費用は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。
- (6) 重要なヘッジ会計の方法
- イ ヘッジ会計の方法  
繰延ヘッジ処理によっております。  
ただし、為替変動のリスクのヘッジについて振当処理の要件を充たす為替予約には振当処理を採用していません。
- ロ ヘッジ手段とヘッジ対象  
ヘッジ手段.....為替予約  
ヘッジ対象.....予定取引（外貨建研究開発費の支払）
- ハ ヘッジ方針  
当社グループは、通貨関連では外貨建研究開発費の支払に関する為替変動リスクを回避し、研究開発活動に関して将来のキャッシュ・フローの固定化を図る目的としておこなうことを基本方針としております。
- ニ ヘッジ有効性評価の方法  
ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。
- ホ その他  
取引に係るリスクの管理体制  
当社グループは、デリバティブ取引につき上記基本方針に基づき取締役会で承認された取引内容に基づいて管理本部長の決裁を得て経理部が実行し、毎月ポジション・損益状況を管理しております。
- (7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲  
手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。
- (8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項  
消費税等の会計処理  
消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

（表示方法の変更）

（連結貸借対照書）

前連結会計年度において表示していた「退職給付引当金」は「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）の適用に伴い、当連結会計年度より、「退職給付に係る負債」として表示しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、表示の組替えは行っておりません。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
投資有価証券(株式)	50,000千円	50,000千円
計	50,000	50,000

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
従業員給料及び手当	2,150,536千円	3,464,241千円
賞与引当金繰入額	454,404	450,187
役員退職慰労引当金繰入額	26,355	26,498
退職給付費用	162,462	179,819
貸倒引当金繰入額	1,207	1,057
研究開発費	4,459,002	4,252,118
販売促進費	2,086,219	2,255,609

2 固定資産売却益の内訳

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
工具器具備品	-千円	447千円
土地	48	-
計	48	447

3 固定資産売却損の内訳

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
建物及び構築物	79,929千円	-千円
機械装置及び運搬具	5,847	-
工具器具備品	70	-
土地	13,597	-
計	99,444	-

4 固定資産除却損の内訳

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
建物及び構築物	2,270千円	19,642千円
機械装置及び運搬具	209	1,072
工具器具備品	-	1,282
土地	3,637	-
ソフトウェア	31,218	8,154
計	37,335	30,151

5 減損損失の内訳

前連結会計期間において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

地域	主な用途	種類	その他	減損損失(千円)
都島(大阪府大阪市)	社宅	土地	遊休グループ	-
小豆島(香川県小豆郡)	保養所	土地	遊休グループ	251

当社グループは、減損会計の適用にあたり、製薬事業・投資不動産・遊休・売却予定グループにグルーピングしており、投資不動産、遊休及び売却予定グループについては、個別資産ごとにグルーピングを行っております。

前連結会計期間において、事業の用に供していない遊休資産のうち、時価が著しく下落した遊休資産及び売却予定資産の帳簿価格を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失251千円として特別損失に計上しております。

また、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により算定しており、遊休資産については、直近の固定資産税評価額を基礎としており、売却予定資産については、売却予定価額により評価しております。

なお、当連結会計期間については、該当事項はありません。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	751,078千円	395,941千円
組替調整額	5,531	-
税効果調整前	756,609	395,941
税効果額	267,905	138,971
その他有価証券評価差額金	488,703	256,970
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	39,073	7,743
組替調整額	3,871	-
税効果調整前	42,945	7,743
税効果額	16,302	2,939
繰延ヘッジ損益	26,643	4,804
為替換算調整勘定：		
当期発生額	136,055	69,585
組替調整額	-	-
税効果調整前	136,055	69,585
税効果額	-	-
為替換算調整勘定	136,055	69,585
その他の包括利益合計	651,402	331,359

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度増加 株式数(千株)	当連結会計年度減少 株式数(千株)	当連結会計年度末株 式数(千株)
発行済株式				
普通株式	12,650	-	-	12,650
合計	12,650	-	-	12,650
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	126,500	10	平成24年3月31日	平成24年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	126,500	利益剰余金	10	平成25年3月31日	平成25年6月28日

当連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度増加 株式数(千株)	当連結会計年度減少 株式数(千株)	当連結会計年度末株 式数(千株)
発行済株式				
普通株式	12,650	-	-	12,650
合計	12,650	-	-	12,650
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	126,500	10	平成25年3月31日	平成25年6月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	189,750	利益剰余金	15	平成26年3月31日	平成25年6月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
現金及び預金勘定	7,997,201千円	9,343,982千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	7,997,201	9,343,982



(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(イ)有形固定資産

製薬事業における事務機器、試験研究設備(工具器具備品)であります。

(ロ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用について安全性の高い金融商品に限定し、設備投資等に必要な資金や短期的な運用資金等は、自己資金による方針であります。また、一時的な余資は、安全性の高い金融資産で運用しております。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

当連結会計年度の決算日現在における営業債権のうち92.8%が特定の大口顧客に対するものであります。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが4ヶ月以内の支払期日であります。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

売掛金に係る顧客の信用リスクは、事前に信用調査を行う等、与信管理規程に沿ってリスクの低減を図っております。

また投資有価証券は主として債券及び株式であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、半期ごとに時価の把握を行っております。

なおデリバティブは内部管理規程に従い、実需の範囲で行うこととしております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

前連結会計年度(平成25年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	7,997,201	7,997,201	-
(2) 受取手形及び売掛金	6,956,834	6,956,834	-
(3) 未収入金	1,259,343	1,259,343	-
(4) 投資有価証券	4,021,266	4,021,266	-
資産計	20,234,644	20,234,644	-
(1) 支払手形及び買掛金(*1)	(2,529,858)	(2,529,858)	-
(2) 未払金及び未払費用(*1)	(4,397,076)	(4,397,076)	-
負債計	(6,926,935)	(6,926,935)	-
デリバティブ取引計(*2)	666,384	666,384	-

当連結会計年度(平成26年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	9,343,982	9,343,982	-
(2) 受取手形及び売掛金	8,013,038	8,013,038	-
(3) 未収入金	1,309,275	1,309,275	-
(4) 投資有価証券	4,367,208	4,367,208	-
資産計	23,033,504	23,033,504	-
(1) 支払手形及び買掛金(*1)	(2,324,349)	(2,324,349)	-
(2) 未払金及び未払費用(*1)	(3,758,775)	(3,758,775)	-
負債計	(6,083,124)	(6,083,124)	-
デリバティブ取引計(*2)	915,368	915,368	-

(\*1)負債に計上されているものについては、( )で示しています。

(\*2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味債務となる項目については、( )で示しています。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金、(3)未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4)投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。また、有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

(1)支払手形及び買掛金、(2)未払金及び未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

3 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
非上場株式	-	303,728
合計	-	303,728

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4)投資有価証券」には含めておりません。

4. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成25年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	7,997,201	-	-	-
受取手形及び売掛金	6,956,834	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1)債権(社債)	-	50,000	-	400,238
(2)その他	-	-	-	-
合計	14,954,035	50,000	-	400,238

当連結会計年度(平成26年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	9,343,982	-	-	-
受取手形及び売掛金	8,013,038	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1)債権(社債)	-	-	-	411,146
(2)その他	-	-	-	-
合計	17,357,020	-	-	411,146

5. リース債務の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成25年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
リース債務	35,437	25,816	13,352	5,701	2,502	-
合計	35,437	25,816	13,352	5,701	2,502	-

当連結会計年度(平成26年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
リース債務	25,816	13,352	5,701	2,502	-	-
合計	25,816	13,352	5,701	2,502	-	-

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成25年3月31日現在)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えるもの	(1)株式	3,559,263	858,891	2,700,372
	(2)債券	-	-	-
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	205,360	196,112	9,247
	その他	-	-	-
(3)その他	-	-	-	
	小計	3,764,623	1,055,003	2,709,619
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えないも の	(1)株式	11,764	13,020	1,255
	(2)債券	-	-	-
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	244,878	250,484	5,605
	その他	-	-	-
(3)その他	-	-	-	
	小計	256,642	263,504	6,861
	合計	4,021,266	1,318,507	2,702,758

当連結会計年度(平成26年3月31日現在)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えるもの	(1)株式	3,956,061	871,911	3,084,150
	(2)債券	-	-	-
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	212,060	196,112	15,947
	その他	-	-	-
(3)その他	-	-	-	
	小計	4,168,121	1,068,023	3,100,098
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えないも の	(1)株式	-	-	-
	(2)債券	-	-	-
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	199,086	200,484	1,398
	その他	-	-	-
(3)その他	-	-	-	
	小計	199,086	200,484	1,398
	合計	4,367,208	1,268,507	3,098,700

(注) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額 303,728千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めていません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
(1)株式	-	-	-
(2)債権	-	-	-
国債・地方債等	-	-	-
社債	592,583	11,302	450
その他	-	-	-
(3)その他	-	-	-
合計	592,583	11,302	450

当連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
(1)株式	-	-	-
(2)債権	-	-	-
国債・地方債等	-	-	-
社債	50,000	-	-
その他	-	-	-
(3)その他	-	-	-
合計	50,000	-	-

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1)通貨関連

前連結会計年度(平成25年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (千円)	契約額等 のうち1年超 (千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引以外の 取引	為替予約取引 買建米ドル	470,250	-	44,811	44,811
	通貨オプション 米ドル買円売	470,250	-	43,187	43,187
	通貨オプション 米ドル買円売	3,103,650	1,881,000	279,855	279,855
	通貨スワップ 米ドル売円買	1,598,850	1,598,850	306,273	306,273
	合計	5,643,000	3,479,850	674,126	674,126

(注) 時価の算定方法

先物相場又は取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成26年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (千円)	契約額等 のうち1年超 (千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引以外の 取引	為替予約取引 買建米ドル	-	-	-	-
	通貨オプション 米ドル買円売	-	-	-	-
	通貨オプション 米ドル買円売	2,058,400	514,600	458,404	458,404
	通貨スワップ 米ドル売円買	1,749,640	1,749,640	456,963	456,963
	合計	3,808,040	2,264,240	915,368	915,368

(注) 時価の算定方法

先物相場又は取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1)通貨関連

前連結会計年度(平成25年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等 のうち1年超 (千円)	時価 (千円)
為替予約等の振当処理	為替予約取引 買建米ドル	外貨建研究開発費の 支払	112,860	56,430	7,743
	合計		112,860	56,430	7,743

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成26年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等 のうち1年超 (千円)	時価 (千円)
為替予約等の振当処理	為替予約取引 買建米ドル	外貨建研究開発費の 支払	-	-	-
	合計		-	-	-

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。

確定給付企業年金制度(すべて積立型制度であります。)では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給します。

退職一時金制度(非積立型制度ですが、退職給付信託を設定した結果、積立型制度となっているものがあります。)では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給します。

2. 退職給付債務に関する事項

(1) 退職給付債務(千円)	3,680,833
(2) 年金資産(千円)	2,268,700
(3) 未積立退職給付債務(1)+(2)(千円)	1,412,132
(4) 未認識数理計算上の差異(千円)	-
(5) 未認識過去勤務債務(債務の増額)(千円)	-
(6) 連結貸借対照表計上額純額(3)+(4)+(5)(千円)	1,412,132
(7) 退職給付引当金(6)(千円)	1,412,132

3. 退職給付費用に関する事項

(1) 勤務費用(千円)	186,861
(2) 利息費用(千円)	71,708
(3) 期待運用収益(千円)	24,797
(4) 数理計算上の差異の費用処理額(千円)	19,665
(5) 過去勤務債務の費用処理額(千円)	-
(6) その他(千円)	-
(7) 退職給付費用(1)+(2)+(3)+(4)+(5)+(6)(千円)	214,106

(注)「(6)その他」は、確定拠出年金への掛金支払額であります。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

- (1) 退職給付見込額の期間配分方法  
期間定額基準
- (2) 割引率  
1.8%
- (3) 期待運用収益率  
1.25%
- (4) 過去勤務債務の額の処理年数  
発生年度に一括して費用処理しております。
- (5) 数理計算上の差異の処理年数  
発生年度に一括して費用処理しております。

当連結会計年度(自平成25年4月1日至平成26年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。

確定給付企業年金制度(すべて積立型制度であります。)では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給します。

なお、一部の確定給付企業年金制度には、退職給付信託が設定されております。

退職一時金制度(非積立型制度ですが、退職給付信託を設定した結果、積立型制度となっているものがあります。)では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給します。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	3,680,833千円
勤務費用	190,402
利息費用	66,254
数理計算上の差異の発生額	68,135
退職給付の支払額	78,355
退職給付債務の期末残高	3,791,000

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

年金資産の期首残高	2,268,700千円
期待運用収益	28,358
数理計算上の差異の発生額	63,247
事業主からの拠出額	334,670
退職給付の支払額	-
年金資産の期末残高	2,568,482

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	3,791,000千円
年金資産	2,568,482
	1,222,517
非積立型制度の退職給付債務	-
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	-
退職給付に係る負債	1,222,517
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,222,517

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	190,402千円
利息費用	66,254
期待運用収益	28,358
数理計算上の差異の費用処理額	4,888
過去勤務費用の費用処理額	-
確定給付制度に係る退職給付費用	223,410

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。	
未認識過去勤務費用	- 千円
未認識数理計算上の差異	-
合計	-

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名  
 該当事項はありません。

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況  
 該当事項はありません。

3. スtock・オプションの公正な評価単価の見積方法  
 該当事項はありません。

4. スtock・オプションの権利確定数の見積方法  
 該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
貸倒引当金	3,190千円	3,193千円
賞与引当金	281,768	259,691
未払事業税	118,152	100,608
未払事業所税	4,258	3,966
未払売上割戻し	107,561	97,344
その他	44,342	110,826
合計	559,275	575,630
繰延税金資産(固定)		
貸倒引当金	6,033	5,357
出資金	12,186	11,547
退職給付引当金	508,672	-
退職給付に係る負債	-	435,093
役員退職慰労引当金	254,826	241,491
一括償却資産	8,644	4,874
減損損失	50,861	50,647
為替予約	2,939	-
工業所有権	-	327,912
その他	29,669	6,426
小計	873,833	1,083,350
評価性引当額	98,950	99,320
合計	774,882	984,030
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	964,353	1,103,324
固定資産圧縮積立金	379,775	350,192
合計	1,344,129	1,453,517
繰延税金資産(固定)の純額	569,246	469,487

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	- %	35.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	-	3.1
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	-	0.3
住民税均等割	-	0.4
試験研究費特別税額控除等	-	8.7
その他	-	3.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	33.1

(注) 前連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については従来の38.0%から35.6%になります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は44,067千円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

当社福崎工場建物及び神戸クリエイティブセンター建物に含まれるアスベストの除去義務であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から6～13年と見積り、割引率は2.0%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
期首残高	11,200千円	11,393千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	-	-
時の経過による調整額	192	196
資産除去債務の履行による減少額	-	-
その他増減額(は減少)	-	-
期末残高	11,393	11,589

(賃貸等不動産関係)

当社では、大阪市において、賃貸不動産(土地)を有しております。前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は41,200千円(賃貸収益は営業外収益に計上)であります。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は41,400千円(賃貸収益は営業外収益に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	838,189	838,189
期中増減額	-	-
期末残高	838,189	838,189
期末時価	723,890	723,890

(注) 当連結会計年度末の時価は、路線価に基づいて自社で算定した金額であります。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

当社グループは、製薬事業セグメントのみを報告セグメントとしておりますので、報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額及びこれらの金額の算定方法等については省略しております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

当社グループは、製薬事業セグメントのみを報告セグメントとしておりますので、報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額及びこれらの金額の算定方法等については省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
武田薬品工業(株)	25,060,098	製薬事業

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
武田薬品工業(株)	29,495,227	製薬事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(イ) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
主要株主	有限会社ホロス	兵庫県西宮市	3,000	保険代理店	(14.0)	資金の貸付	資金の貸付	48,000	長期貸付金	235,000

当連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
主要株主	有限会社ホロス	兵庫県西宮市	3,000	保険代理店	(14.2)	資金の貸付	資金の返済	10,000	長期貸付金	225,000

(ロ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
子会社	千寿製薬科技（北京）有限公司	中国北京市	35,000千円	中国市場における各種調査の委託業務	100	中国市場における各種調査の委託業務	業務委託料の支払	159,494	未払金	23,253
関連会社	セオリアファーマ株式会社	東京都港区	30,000千円	医療用医薬品の販売	40	当社医療用医薬品の販売	当社製品の販売	430,916	売掛金	97,300

当連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
子会社	千寿製薬科技（北京）有限公司	中国北京市	35,000千円	中国市場における各種調査の委託業務	100	中国市場における各種調査の委託業務	業務委託料の支払	249,958	未払金	27,626
関連会社	セオリアファーマ株式会社	東京都港区	30,000千円	医療用医薬品の販売	40	当社医療用医薬品の販売	当社製品の販売	450,676	売掛金	159,648

(ハ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（百万円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
役員	吉田 祥二	-	-	当社代表取締役	(5.9)	資金の貸付	資金の貸付	-	長期貸付金	300,000

当連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（百万円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
役員	吉田 祥二	-	-	当社代表取締役	(5.7)	資金の貸付	資金の貸付	-	長期貸付金	300,000

(注) 1. 上記(イ)～(ハ)の金額のうち、取引金額及び期末残高には消費税は含まれておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(1) 資金の貸付については、市場金利を勘案して決定しております。

(2) 業務委託料の支払及び医療用医薬品の販売については、一般の取引条件と同様に決定しております。

( 1株当たり情報 )

項目	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり純資産額	2,314.01円	2,592.45円
1株当たり当期純利益金額	200.31円	262.24円
	なお潜在株式調整後1株あたり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。	なお潜在株式調整後1株あたり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
当期純利益(千円)	2,534,030	3,317,422
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	2,534,030	3,317,422
期中平均株式数(千株)	12,650	12,650

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定のリース債務	35,437	25,816	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	47,372	21,556	-	-
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	82,809	47,372	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載していません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下の通りであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	13,352	5,701	2,502	-

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	7,267,762	8,820,083
売掛金	6,956,834	8,013,038
商品及び製品	1,820,126	2,186,842
仕掛品	450,676	406,139
原材料及び貯蔵品	1,039,412	1,168,332
前払費用	306,112	427,299
繰延税金資産	559,275	575,630
未収入金	1,254,793	1,309,275
その他	128,402	378,400
貸倒引当金	8,406	8,973
流動資産合計	19,774,989	23,276,069
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	9,981,600	10,574,058
減価償却累計額	6,819,518	7,091,430
建物（純額）	3,162,082	3,482,628
構築物	809,917	815,970
減価償却累計額	577,934	602,563
構築物（純額）	231,983	213,407
機械及び装置	5,869,550	7,811,497
減価償却累計額	4,743,609	6,079,621
機械及び装置（純額）	1,125,941	1,731,875
車両運搬具	79,442	76,223
減価償却累計額	75,870	74,948
車両運搬具（純額）	3,571	1,275
工具、器具及び備品	3,066,792	3,358,781
減価償却累計額	2,642,791	2,833,001
工具、器具及び備品（純額）	424,000	525,780
土地	2,025,487	2,025,487
リース資産	189,720	189,720
減価償却累計額	108,611	142,347
リース資産（純額）	81,108	47,372
建設仮勘定	2,892,906	7,000
有形固定資産合計	9,947,081	8,034,827
<b>無形固定資産</b>		
特許権	3,380,394	3,079,220
商標権	2,715	3,280
ソフトウェア	722,069	742,215

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
無形固定資産合計	4,105,178	3,824,716
投資その他の資産		
投資有価証券	4,021,266	4,670,936
関係会社株式	1,125,794	597,011
出資金	34,582	27,662
長期貸付金	1,535,000	1,525,000
従業員に対する長期貸付金	29,252	26,387
敷金	231,591	234,345
保険積立金	609,166	593,590
投資不動産	838,189	838,189
為替予約	674,128	915,368
貸倒引当金	16,952	15,052
投資その他の資産合計	8,082,018	8,413,439
固定資産合計	22,134,278	20,272,983
資産合計	41,909,267	43,549,053
負債の部		
流動負債		
支払手形	1,349,530	1,056,698
買掛金	1,142,723	1,267,650
リース債務	33,735	25,816
未払金	4,202,727	3,395,633
未払法人税等	1,425,935	1,117,384
未払消費税等	194,701	47,047
未払費用	196,659	381,449
前受金	-	4,380
預り金	185,121	304,245
賞与引当金	742,278	729,676
返品調整引当金	30,236	20,783
設備関係支払手形	35,401	-
流動負債合計	9,539,049	8,350,765
固定負債		
リース債務	47,372	21,556
繰延税金負債	569,246	469,487
退職給付引当金	1,412,132	1,222,517
役員退職慰労引当金	712,038	678,536
為替予約	7,743	-
資産除去債務	11,393	11,589
固定負債合計	2,759,926	2,403,687
負債合計	12,298,976	10,754,452

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,415,500	1,415,500
資本剰余金		
資本準備金	1,190,500	1,190,500
資本剰余金合計	1,190,500	1,190,500
利益剰余金		
利益準備金	353,875	353,875
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	687,309	633,771
別途積立金	21,200,000	23,800,000
繰越利益剰余金	3,029,506	3,405,578
利益剰余金合計	25,270,690	28,193,224
株主資本合計	27,876,690	30,799,224
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,738,404	1,995,375
繰延ヘッジ損益	4,804	-
評価・換算差額等合計	1,733,600	1,995,375
純資産合計	29,610,291	32,794,600
負債純資産合計	41,909,267	43,549,053

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上高		
製品売上高	25,425,676	30,407,018
商品売上高	3,261,206	2,900,973
売上高合計	28,686,883	33,307,991
売上原価		
製品期首たな卸高	1,918,002	1,382,530
当期製品製造原価	7,818,934	9,821,065
合計	9,736,936	11,203,595
製品期末たな卸高	1,382,530	1,720,615
他勘定振替高	164,636	147,388
製品売上原価	8,289,769	9,435,592
商品期首たな卸高	328,874	336,267
当期商品仕入高	1,731,478	1,515,708
合計	2,060,353	1,851,975
商品期末たな卸高	336,267	320,044
商品売上原価	1,724,086	1,531,931
売上原価合計	10,013,855	10,967,524
売上総利益	18,673,028	22,340,467
返品調整引当金戻入額	37,168	30,236
返品調整引当金繰入額	30,236	20,783
差引売上総利益	18,679,960	22,349,920
販売費及び一般管理費	2,318,095,457	2,320,856,192
営業利益	584,502	1,493,727
営業外収益		
受取利息	19,343	22,518
受取配当金	65,344	71,569
為替差益	-	807,138
受取技術料	2,097,022	2,581,129
投資不動産賃貸料	41,200	41,400
保険戻戻金	71,791	71,791
その他	143,864	121,498
営業外収益合計	2,438,567	3,717,046
営業外費用		
為替差損	350,713	-
たな卸資産評価損	-	40,635
賃貸資産解約損	3,612	4,202
その他	26,460	17,167
営業外費用合計	380,787	62,005
経常利益	2,642,283	5,148,769

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
<b>特別利益</b>		
特許権許諾料	-	8,640
固定資産売却益	4,48	4,447
為替差益	1,676,818	-
その他	11,302	-
特別利益合計	1,688,169	9,087
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	6,37,335	6,30,151
固定資産売却損	5,99,444	-
たな卸資産廃棄損	13,112	33,221
減損損失	7,251	-
関係会社株式評価損	-	528,782
その他	685	5,000
特別損失合計	150,829	597,155
税引前当期純利益	4,179,623	4,560,700
法人税、住民税及び事業税	1,445,456	1,769,690
法人税等調整額	40,554	258,023
法人税等合計	1,486,010	1,511,666
当期純利益	2,693,612	3,049,033



【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
原材料費	* 1	3,368,241	42.5	3,684,574	37.2
労務費		1,438,179	18.1	1,748,715	17.7
経費		3,120,133	39.4	4,465,892	45.1
当期総製造費用		7,926,554	100.0	9,899,182	100.0
期首仕掛品・半製品棚卸高		546,136		552,005	
合計		8,472,690		10,451,187	
期末仕掛品・半製品棚卸高		552,005		552,322	
他勘定振替高	* 2	101,750		77,799	
供試品使用高		-		-	
当期製品製造原価		7,818,934		9,821,065	

(注)

前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
* 1 . 経費のうち主なものは次のとおりであります。		* 1 . 経費のうち主なものは次のとおりであります。	
減価償却費	860,202千円	減価償却費	1,939,676千円
外注加工費	1,327,609	外注加工費	1,403,984
工場消耗品費	273,834	工場消耗品費	285,733
賃借料	7,259	賃借料	3,296
水道光熱費	224,651	水道光熱費	256,819
その他	426,575	その他	576,383
計	3,120,133	計	4,465,892
* 2 . 実験消耗費、広告宣伝費等への振替高であります。		* 2 . 実験消耗費、広告宣伝費等への振替高であります。	
3 . 原価計算の方法は組別総合原価計算を採用しております。		3 . 原価計算の方法は組別総合原価計算を採用しております。	

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本								株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			利益剰余金合計	
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金				
					固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	1,415,500	1,190,500	1,190,500	353,875	757,913	19,240,000	2,351,790	22,703,578	25,309,578
当期変動額									
剰余金の配当							126,500	126,500	126,500
固定資産圧縮積立金の取崩					70,604		70,604	-	-
別途積立金の積立						1,960,000	1,960,000	-	-
当期純利益							2,693,612	2,693,612	2,693,612
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	70,604	1,960,000	677,716	2,567,112	2,567,112
当期末残高	1,415,500	1,190,500	1,190,500	353,875	687,309	21,200,000	3,029,506	25,270,690	27,876,690

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,249,701	31,447	1,218,253	26,527,832
当期変動額				
剰余金の配当				126,500
固定資産圧縮積立金の取崩				
別途積立金の積立				
当期純利益				2,693,612
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	488,703	26,643	515,347	515,347
当期変動額合計	488,703	26,643	515,347	3,082,459
当期末残高	1,738,404	4,804	1,733,600	29,610,291

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本								株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				利益剰余金合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金				
					固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	1,415,500	1,190,500	1,190,500	353,875	687,309	21,200,000	3,029,506	25,270,690	27,876,690
当期変動額									
剰余金の配当							126,500	126,500	126,500
固定資産圧縮積立金の取崩					53,537		53,537	-	-
別途積立金の積立						2,600,000	2,600,000	-	-
当期純利益							3,049,033	3,049,033	3,049,033
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	53,537	2,600,000	376,071	2,922,533	2,922,533
当期末残高	1,415,500	1,190,500	1,190,500	353,875	633,771	23,800,000	3,405,578	28,193,224	30,799,224

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,738,404	4,804	1,733,600	29,610,291
当期変動額				
剰余金の配当				126,500
固定資産圧縮積立金の取崩				
別途積立金の積立				
当期純利益				3,049,033
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	256,970	4,804	261,774	261,774
当期変動額合計	256,970	4,804	261,774	3,184,308
当期末残高	1,995,375	-	1,995,375	32,794,600

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法

時価法

3. たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品、製品、半製品、仕掛品、原材料、貯蔵品

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については定額法)を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	31~38年
機械装置	8年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 返品調整引当金

返品による損失に備えるため、過去の実績に基づき計上しております。

(3) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産を控除した額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異及び過去勤務費用は発生年度に全額費用処理しております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金支給に備えて、内規に基づく期末要支給額の100%を計上しております。

7. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

ただし、為替変動のリスクのヘッジについて振当処理の要件を充たす為替予約には振当処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段.....為替予約

ヘッジ対象.....予定取引(外貨建研究開発費の支払)

(3) ヘッジ方針

当社は、通貨関連では外貨建研究開発費の支払に関する為替変動リスクを回避し、研究開発活動に関して将来のキャッシュ・フローの固定化を図る目的としておこなうことを基本方針としております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。

8. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(貸借対照表関係)

1 長期貸付金

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
株主及び役員に対する長期貸付金	535,000千円	525,000千円

(損益計算書関係)

1 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当事業年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
販売費への振替高(研究開発費)	61,899千円	41,091千円
特別損失(たな卸資産廃棄損)	2,736	6,297
計	64,636	47,388

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度53%、当事業年度52%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度47%、当事業年度48%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当事業年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
広告宣伝費	1,013,592千円	1,060,679千円
給料	2,641,254	3,341,922
賞与引当金繰入額	454,404	450,187
退職給付費用	162,462	179,819
役員退職慰労引当金繰入額	26,355	26,498
販売促進費	2,086,219	2,255,609
減価償却費	976,543	939,074
特許権使用料	2,214,088	3,656,639
貸倒引当金繰入額	1,207	1,057

3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当事業年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
	4,459,483千円	4,169,281千円

4 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当事業年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
工具、器具及び備品	-千円	447千円
土地	48	-
計	48	447

5 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当事業年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
建物	79,929千円	-千円
構築物	5,847	-
工具、器具及び備品	70	-
土地	13,597	-
計	99,444	-

6 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
建物	2,270千円	19,133千円
構築物	-	509
機械及び装置	209	1,043
車両運搬具	-	28
工具、器具及び備品	3,637	1,282
ソフトウェア	31,218	8,154
計	37,335	30,151

7 減損損失の内訳

前事業年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

地域	主な用途	種類	その他	減損損失 (千円)
都島(大阪府大阪市)	社宅	土地	遊休グループ	-
小豆島(香川県小豆郡)	保養所	土地	遊休グループ	251

当社グループは、減損会計の適用にあたり、製薬事業・投資不動産・遊休・売却予定グループにグルーピングしており、投資不動産、遊休及び売却予定グループについては、個別資産ごとにグルーピングを行っております。

当事業年度において、事業の用に供していない遊休資産のうち、時価が著しく下落した遊休資産及び売却予定資産の帳簿価格を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失251千円として特別損失に計上しております。

また、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により算定しており、遊休資産については、直近の固定資産税評価額を基礎としており、売却予定資産については、売却予定価額により評価しております。

なお、当事業年度については、該当事項はありません。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数 (千株)	当事業年度増加株式数 (千株)	当事業年度減少株式数 (千株)	当事業年度末株式数 (千株)
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数 (千株)	当事業年度増加株式数 (千株)	当事業年度減少株式数 (千株)	当事業年度末株式数 (千株)
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(イ) 有形固定資産

製薬事業における事務機器、試験研究設備(工具器具備品)であります。

(ロ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(有価証券関係)

子会社株式及び関係会社株式

(単位:千円)

区分	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
子会社株式	1,113,794	585,011
関連会社株式	12,000	12,000

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
貸倒引当金	3,190千円	3,193千円
賞与引当金	281,768	259,691
未払事業税	118,152	100,608
未払事業所税	4,258	3,966
未払売上割戻し	107,561	97,344
その他	44,342	110,826
合計	559,275	575,630
繰延税金資産(固定)		
貸倒引当金	6,033	5,357
出資金	12,186	11,547
退職給付引当金	508,672	435,093
役員退職慰労引当金	254,826	241,491
一括償却資産	8,644	4,874
減損損失	50,861	50,647
為替予約	2,939	-
工業所有権	-	327,912
その他	29,669	6,426
小計	873,833	1,083,350
評価性引当額	98,950	99,320
合計	774,882	984,030
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	964,353	1,103,324
固定資産圧縮積立金	379,775	350,192
合計	1,344,129	1,453,517
繰延税金資産(固定)の純額	569,246	469,487

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	- %	35.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	-	3.1
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	-	0.3
住民税均等割	-	0.4
試験研究費特別税額控除等	-	8.7
その他	-	3.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	33.1

(注) 前事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については従来の38.0%から35.6%になります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は44,067千円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

当社福崎工場建物及び神戸クリエイティブセンター建物に含まれるアスベストの除去義務であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から6～13年と見積り、割引率は2.0%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
期首残高	11,200千円	11,393千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	-	-
時の経過による調整額	192	196
資産除去債務の履行による減少額	-	-
その他増減額(は減少)	-	-
期末残高	11,393	11,589

(1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり純資産額	2,340.73円	2,592.45円
1株当たり当期純利益金額	212.93円	241.03円
	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
当期純利益(千円)	2,693,612	3,049,033
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	2,693,612	3,049,033
期中平均株式数(千株)	12,650	12,650

(重要な後発事象)

該当事項はありません。



【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	その他有価証券	株式会社メディカルホールディングス	1,251,200	1,974,393
		株式会社三井住友フィナンシャルグループ	24,197	106,684
		株式会社三菱UFJフィナンシャルグループ	105,140	59,614
		参天製薬株式会社	358,711	1,642,896
		株式会社みずほフィナンシャルグループ	46,770	9,541
		三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	270,435	126,022
		第一生命保険株式会社	93	13,950
		ロート製薬株式会社	2,000	3,644
		株式会社ほくやく	5,250	3,675
		株式会社イチネンホールディングス	20,000	15,640
		その他(3銘柄)	2,600,086	303,728
計			4,683,882	4,259,789

【債券】

		銘柄	券面総額(千円)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	その他有価証券	米国国債ストリップ債	97,564	104,746
		米国国債ストリップ債(Tボンド)	98,547	107,313
		米国国債ストリップ債(Tボンド)	200,484	199,086
		小計	396,596	411,146
計			396,596	411,146

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	9,981,600	733,373	140,915	10,574,058	7,091,430	393,694	3,482,628
構築物	809,917	7,333	1,280	815,970	602,563	25,401	213,407
機械及び装置	5,869,550	2,025,005	83,059	7,811,497	6,079,621	1,418,027	1,731,875
車輛及び運搬具	79,442	-	3,218	76,223	74,948	2,267	1,275
工具、器具及び備品	3,066,792	365,878	73,889	3,358,781	2,833,001	261,834	525,780
土地	2,025,487	-	-	2,025,487	-	-	2,025,487
			(-)				
リース資産	189,720	-	-	189,720	142,347	33,735	47,372
建設仮勘定	2,892,906	84,246	2,970,152	7,000	-	-	7,000
有形固定資産計	24,915,417	3,215,837	3,272,515	24,858,740	16,823,912	2,134,960	8,034,827
			(-)				
無形固定資産							
特許権	6,905,709	339,571	-	7,245,281	4,166,060	640,744	3,079,220
商標権	7,200	1,200	-	8,400	5,120	635	3,280
ソフトウェア	1,891,423	363,103	230,100	2,024,427	1,282,211	338,402	742,215
無形固定資産計	8,804,333	703,874	230,100	9,278,108	5,453,392	979,782	3,824,716

(注) 1. 有形固定資産の取得価額から圧縮記帳額が次のとおり控除されています。

建物 229,278千円  
土地 160,985千円

2. 当期増加額のうち主なるものは下記のとおりであります。

建物 唐津工場 唐津工場生産棟他(2期エリア) 612,013千円  
構築物 唐津工場 駐車場他(2期エリア) 5,951千円  
機械装置 唐津工場 自動検査設備検査機他(2期エリア) 1,950,734千円  
工具器具備品 唐津工場 サーババックアップ用他(2期エリア) 9,129千円  
ソフトウェア 唐津工場 MPLCソフト他(2期エリア) 108,023千円

3. 当期減少額のうち主なるものは下記のとおりであります。

ソフトウェア 本社 ALTERNAX関連一 91,303千円  
建物 オレゴン研究所 内装工事他 68,465千円

4. 「当期減少額」欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。

5. 機械及び装置の当期償却額には、租税特別措置法による特別償却額607,501千円を含んでおります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	25,358	567	-	1,900	24,025
返品調整引当金	30,236	-	-	9,453	20,783
賞与引当金	742,278	729,676	742,278	-	729,676
役員退職慰労引当金	712,038	26,498	60,000	-	678,536

(注) 1. 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

2. 返品調整引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替処理による戻入れ額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	24,650
預金	
当座預金	4,947,689
普通預金	488,675
通知預金	-
定期預金	-
外貨普通預金	2,329,869
外貨定期預金	1,029,200
小計	8,795,433
合計	8,820,083

ロ 売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
武田薬品工業株式会社	7,425,812
杏林製薬株式会社	175,386
セオリアファーマ株式会社	159,648
その他	252,190
合計	8,013,038

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期末残高 (千円)	当期末発生高 (千円)	当期末回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2}$ 12
6,956,834	32,784,851	31,728,647	8,013,038	79.8	2.73 ヶ月

(注) 当期末発生高には消費税等が含まれております。

ハ 商品及び製品(半製品含む)

品目	金額(千円)
眼科用剤医療用	1,936,693
眼科用剤一般用	230,428
耳科用剤医療用	-
その他	19,720
合計	2,186,842

ニ 仕掛品

品目	金額(千円)
眼科用剤医療用	379,094
眼科用剤一般用	18,548
その他	8,488
合計	406,131

ホ 原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
原材料	
原料薬品	573,642
直接材料	179,352
間接材料	136,243
小計	889,238
貯蔵品	
試薬	92,950
販促物(医家向)	74,854
販促物(薬局向)	12,682
その他	98,606
小計	279,093
合計	1,168,332

へ 未収入金

品目	金額(千円)
定率実施料	1,281,309
その他	27,966
合計	1,309,275

流動負債

イ 支払手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
株式会社西口アンプル製作所	252,017
東亜薬品株式会社	162,881
扇港樹脂工業株式会社	144,960
阪神容器株式会社	130,243
カンナル印刷株式会社	80,442
テイカ製薬株式会社	70,433
大成化工株式会社	69,956
その他	145,763
合計	1,056,698

(ロ) 期日別内訳

期日	金額(千円)
平成26年 4月 満期	301,317
5月 満期	275,317
6月 満期	263,878
7月 満期	216,186
合計	1,056,698

ロ 買掛金

相手先	金額(千円)
大塚製薬株式会社	218,297
株式会社資生堂	215,309
株式会社大塚製薬工場	119,697
生化学工業株式会社	99,662
その他	614,682
合計	1,267,650

ハ 未払金

相手先	金額(千円)
杏林製薬株式会社	1,053,783
Allergan, Inc	404,602
武田薬品工業株式会社	259,282
あすか製薬株式会社	136,500
その他	1,541,464
合計	3,395,633

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
株券の種類	株券不発行
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	該当事項なし
株式の名義書換え 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 名義書換手数料 新券交付手数料	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 三井住友信託銀行株式会社 全国各支店 無料 無料
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	- - - -
公告掲載方法	官報
株主に対する特典	なし

(注) 1. 当会社の株式を譲渡するには代表取締役社長の承認を要する。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は上場会社ではありませんので、金融商品取引法第24条の7第1項の適用がありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1)有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第72期）（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）平成25年6月27日近畿財務局長に提出

(2)半期報告書

（第73中）（自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）平成25年12月20日近畿財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書

平成26年 6月11日

千寿製薬株式会社

取締役会 御中

聖徳公認会計士共同監査事務所

公認会計士 樋口 秀和 印

公認会計士 樋口 和寿 印

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている千寿製薬株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

私たちの責任は、私たちが実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私たちに連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私たちの判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私たちは、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

私たちは、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、千寿製薬株式会社及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。  
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成26年 6月11日

千寿製薬株式会社

取締役会 御中

聖徳公認会計士共同監査事務所

公認会計士 樋口 秀和 印

公認会計士 樋口 和寿 印

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている千寿製薬株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第73期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

私たちの責任は、私たちが実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私たちに財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私たちの判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私たちは、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

私たちは、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、千寿製薬株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。